

謝 辞

被表彰者代表

江 崎 正 啓



大変僭越ではございますが、ご指名でございますので、被表彰者を代表しましてご挨拶申し上げます。

本日は本当にありがとうございました。本来なら、私のような若輩者が代表としてご挨拶申し上げる立場ではございません。私と比べまして、仲様は先輩の理事長として、また、専務理事等々、多大なご貢献をなさったと理解しております。しかし、仲様から、「君は貢献が足りないので、せめて挨拶ぐらいはして、もう少し貢献度を高めて、貰うものを貰いなさい」という命令が下りまして、私にご挨拶を申し上

げることになった次第です。

11名を代表してということですが、皆様の貢献はそれぞれに違っております。ここでは私の事として、お話をさせていただければと思います。

私がなぜ功労者に選ばれたかということですが、多分、長い間、知財協の活動に関与したことと、もう一つは、ボランティアとして豊田市から東京まで何度も足を運び、交通費を沢山負担したとーこれは会社ですがー、きっとこれが一番の理由だったのではないかと考えております。

私自身、10年余にわたって、知財協の活動に関与してまいりました。最初は、国際委員会で行っていました。それから、総務企画委員会、それと、執行部として10年以上関係してまいりました。その間、私は大変多くの人々と知り合うことができ、また、それらの方々から経験や知識を授けていただいたと思っております。このことが、私自身の大変貴重な財産でございます。これに勝るものはないだろうと私自身思っております。これに比べれば、知財協への私の貢献などというのは大変小さいものであると思っております。そういう意味では、今日ここで表彰されまして、大変恐縮しております。

今、知的財産をめぐる環境は大きく変わりつつあると思います。国際的にも企業にとって知的財産は大変重要になってきている時期だと思っておりますが、こういう中で、私自身その活動の一端に関与することができたということは、私にとって大変楽しい思い出であるとともに、貴重な財産であります。また、私どもの会社にとっても、大きな財産になっていると感じております。

今後、国際的に知的財産の改革の動きはますます進んでいくだろうと思っております。そういう中で、日本知的財産協会がその推進力として、日本はもちろんのこと、世界の中でオピニオンリーダーとして、その力を発揮していくことを確信しております。それを会員の皆様方が今迄以上、強力にサポートして下さいようお願い申し上げます。

日本知的財産協会の今後の更なる発展と、皆様方会員企業のますますのご発展をお祈りいたしまして、お礼のご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。